

国語

〔一〕 次の文章を読んで、問〔1〕～〔18〕に答えよ。

孤独によって生産されるものは、思いのほか多い。そして、その個人活動のほとんどは頭脳によって行われるものだ。躰からだを使った作業は、一人でなくてもできる。たとえばプロの漫画家の友達から聞いた話では、最初にストーリーリイやコマ割りを決める（人によって、これを「ネーム」といったり「コンテ」といったりするようだ）。これが一番大変な仕事で、つまりは建築でいうデザインであり、設計図を描く過aテイと同じである。このとき、漫画家は一人で部屋に籠って、これを行う。そして、それが完成すると、（この時点で編集者との打合わせがあることが多いが）絵を実際に描く作業を始めることができる。その段階になると、アシスタントと呼ばれる複数の助っ人に作業を任せられる。みんなで楽しくおしゃべりをしながら作品を完成させるのである。そして、出来上がった作品には、漫画家一人の名前が記される。

残念ながら、小説家にはこのような P プロセスがない。最初から最後まで一人だ。漫画でいうところのネームを作って、そのあとをアシスタントに任せるといような作業も可能だと思われるけれど、それが事実上できないのは、文章を書きながらでないと、ストーリーも思いつかないし、そもそも文章の細かい表現や、登場人物の台詞などのディテールにも、作家の個性が出るためだと思う。漫画でも、もちろんそういった作者ならではのディテールはあるはずなので、なかには最初から最後まですべて自分一人で描き上げるプロ作家もいる（知合しあひいの漫画家で、そういう人を知っている）。そうならないのは、比較的誰が描いても差が出ないバック（風景など）や、やはり考えずにできる作業（たとえば、ベタを塗るとかトーンを貼るとか）があるためだし、なによりも、大勢で仕上げた方が効率が良い、そうしなければ連載のペースに間に合わない、という事情もあるだろう。また、漫画家の場合、小説家と比較すると若くしてデビューする人が多く、ネームの段階で編集部のチェックが入ることが通常らしい。なにか注文がつく、ということがあるわけだ。小説ではそういった機会は、脱bコウ後、すべてを活字にしたあとのチェック段階にある。文字は比較的簡単に修正ができるので、どのように原コウが完成したあとでも良い、ということだと思われる。

いずれにしても、一人で行う作業がいかに重要であるかということがいろいろな例からわかるだろう。小説と漫画と建築の話をしたのは、たまたま僕がその方面で知合いが多いというだけだが、どんな仕事でも（それが創造的な作業ならば特に）、これとだいたい同じ、あるいはこういった部分がある、と想像する。

子供は学校へ行くと、集団行動を強いられる。社会で生きていくためには、周囲と歩調を合わせ、自分勝手な行動を抑制iし、他者にマイ惑cにならないような気遣いをしなければならないので、集団生活はもちろん重要な教育だと思われる。

しかし学問というのは、べつに集団で行う必要はない。そもそもものを覚えたり、練習をしたり、といった作業は個人的な活動だ。体育と音楽などは、多人数がいて初めてできることがあるけれど、ほかの科目は、自分一人ですることが前提である。ただ、自分以外の人間がどんなことを考えているか、どのくらいの能力か、ということが**B**集団では学べるというだけである（「だけである」と書いたが、実はこれは非常に重要な学びである）。

僕が小学生のときには、教室の机は二人で一つだった。つまり、長い机に二人が椅子を並べて座る。それが中学へ上がったとき、机が一人ずつだったので、ちょっとびっくりした。今は、小学校でも一人で一つの机を使っているところが増えたようだ。これが示すように、やはり勉強は基本的に一人でするものである。学校で大勢が集まっているのは、主として「効率」の問題といえる。先生と生徒が一对一では、先生が大勢必要になる。だから、この「学校」という仕組みができたわけだ。そもそも、学校のルーツというのは西洋では軍隊であって、集団行動を教える場でもあった。それがそのまま学問の場に適用されただけともいえる。

もし先生が大勢いるのなら、家庭教師のように、先生が生徒の家を訪ねて、そこで教えることができる。これは、ネットやモニタを使えば、今でも実現できる。そうすれば「学校」という建物や土地が必要なくなるし、苛めも起こらないし、もっと生徒の学力に応じたきめの細かい教育が可能になるだろう。エネルギー的にも大変な節約になるし、なによりも「安全」である。ただ、「集団」という体験を教えられないので、多くの人は、「**C**そんな寂しいのは学校じゃない」と**D**反発するにきまっている。

実は、僕はそうは全然思わない。これからは、教育に限らず、社会もそうなっていくかもしれない。会社だって、わざわざ出勤する必要などなくなるのではないか。そう考えると、「**E**集団」というものを教える必要性は、今よりは確実に低下するだろう。ただ、そうなるのは、まだだいぶさき（たぶん、数十年さき）だと想像する。

子供を持つ親のほとんどは、子供が集団の中で上手く**F**馴染むことを願っている。それは、子供が成長したときに、社会で生きていくために重要な**Q**だとわかっているからだ。子供が友達の話をする時、親は嬉しい。友達と仲良く遊ぶ自分の子供を見れば安心できる。逆に、集団の中で孤立していないか、と心配するし、学校が楽しくないと子供が言えば、これは親にとっては大きなショックだろう。今の子供は、親を心配させないように、「学校は楽しい」「友達ができた」と報告するかもしれない。親を喜ばせることが、「良い子」の役目だということを、この歳頃になれば既に充分に理解しているからだ。少々の脚色は簡単にできる。嘘もつける。嘘であっても、親を喜ばせたいのだ。

考えてみてほしい。学校はそんなに楽しいところだろうか？ 友達ができるというのはどういう状況を示すのか？ **D**安いに言葉だけで、親子がやり取りをしている場面が多いように見受けられる。一年生の頃ならば、なにかもが新しいわけだから、そこそこ面白いこともあるだろう。しかし学年が進み、勉強ができる子、ついていけない子、と差が出てくる。テストをすれば点数が書かれて返ってくる。遊ぶのを我慢して、しなければならぬ宿題がある。なにかの失敗をして、みんなの前で恥を

かいたり、叱られたりすることもある。運動が不得手な子は、体育の時間が憂鬱だろう。不得意な科目でもその時間ずっと耐えなければならない。とにかく、その場から逃げ出すことができない不自由を強いられるのだ。

学校が楽しいところだ、と教えられたはずなのに、だんだん、それほど楽しいところでもないことが子供にもわかってくる。大人たちは嘘をついていたのだ、と思える子はまだ良い。多くの子供は、自分が悪い、自分になにか不具合があるから、学校が楽しめないのだ、と感じ始めるのではないか。先生たちは、子供たちが楽しんで勉強できる工夫に頭を捻ひねっている。TVの番組を見ても、勉強を面白おかしく演出して、子供が興味を持つように誘導する。「楽しい算数」「面白い理科」といったネーミングで攻めてくる。しかし、どうしたって面白くないものは面白くないのである。

「いや本当はね、勉強っていうのは辛いものなんだ。でも、辛けれど我慢をしてやらなければならぬ。そうすれば、きっとあとになって良いことがある」とはなかなか教えてもらえない。

つまり、ここにも「楽しくない」ことを極度に[R]精神がある。孤独の場合とまったく同じだ。孤独に悩むのと同様に、多くの子供が登校キョ否えに追い込まれるだろう。「どうしても、僕には楽しめない」という実に正直な反応といわざるをえない。

何故、綺麗きれいな言葉を使って誤魔化そうとするのだろうか。大人は少し考え直した方が良い。もう少し素直iiになってもらいたい、と僕は思う。

(森博嗣『孤独の価値』。なお、出題に際して、本文を一部改めてある。)

[1]～[5] 傍線部 a～d のカタカナで書かれた部分と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

a 過あテイ (解答番号①)

- ① 議事の打ち切りをテイ案する。
- ② 星の配置を観察し、現在位置をテイ位する。
- ③ 楽器を調整して正しい音テイにする。
- ④ テイ節を尽くす。
- ⑤ 彼女は料テイで和食の技術を学んだ。

b 脱だコウ (解答番号②)

- ① 彼は親コウ行な息子だ。
- ② 福利コウ生の整った会社に入る。
- ③ コウ水で家が水びたしになった。
- ④ 彼は雑誌にエッセイを投コウした。
- ⑤ 先生のコウ話が生徒に大きな感動を与えた。

c メイ惑 (解答番号③)

- ① ある国と同メイを組んでいる。
- ② 政変により大統領が海外に亡メイした。
- ③ 先生の話に感メイを受ける。
- ④ その風景はメイ状じょうしがたいほど美しい。
- ⑤ メイ信を信じてはいけません。

d 安イ (解答番号④)

- ① 富士山のイ容を仰ぐ。
 - ② 経済状況の推イによって方針が変わる。
 - ③ その本の文章は平イである。
 - ④ 彼にイ謝料を請求した。
 - ⑤ 彼の判断は客観的なデータにイ拠している。
- e キヨ否 (解答番号⑤)

- ① 彼女のキヨ動は常に落ち着いている。
- ② キヨ食症により体重が減少した。
- ③ キヨ額の資金が必要となった。
- ④ 憲法問題によって与野党間のキヨ離が広がった。
- ⑤ 彼はキヨ弱体質だ。

〔6〕 空欄部 P に入る語句としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑥)

- ① 大勢で楽しく作り上げる
- ② 作家の個性が出る
- ③ 頭脳によって行われる
- ④ 部屋に籠って行う
- ⑤ 助っ人の名前が記されない

〔7〕 二重傍線部 A 「それが事実上出来ない」の本文中における意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑦)

- ① それは絶対に不可能である。
- ② それに反する事実も存在する。
- ③ 現実的にはそうすることはできない。
- ④ もう少し工夫すれば可能である。
- ⑤ そうすることは許されない。

〔8〕 傍線部 i 「抑制」の対義語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑧)

- ① 向上
- ② 促進
- ③ 集中
- ④ 熱狂
- ⑤ 混乱

〔9〕 二重傍線部 B 「集団では学べるというだけである」と作者が表現した理由としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑨)

- ① 個人では学べない集団の学びを強調したかったから。
- ② 重要な学びであることを強調したかったから。
- ③ 人々が考えているほど集団で学べることは多くないから。
- ④ 集団で学べることはほとんどないから。
- ⑤ 多人数がいて初めてできる科目は限られているから。

- (10) 二重傍線部C「そんな寂しいのは学校じゃない」の本文中の意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑩)
- ①学校はそんなに楽しいものではなく、もっとずっと寂しいものである。
②集団生活を学べないようなら、それは学校と呼べるものではない。
③学校ではなく、家庭教師のように家を訪ねる教育の方がもっと寂しい。
④そんなに寂しいものがあるとしたら、それは集団体験を教えられない学校である。
⑤学校というものは、なによりも安全なだけで本来寂しいものである。

- (11) 二重傍線部D「反発するにきまっている」の本文中の意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑪)
- ①反発しない可能性もある。 ②反発するかどうかは分からない。
③反発するかもしれない。 ④必ず反発するわけではない。
⑤確実に反発する。

- (12) 二重傍線部E『集団』というものを教える必要性は、今よりは確実に低下する」の理由としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑫)
- ①将来は家庭教師のように先生が生徒の家を訪ねて教えるようになるから。
②将来は集団生活を強いられる環境が少なくなっていくと考えられるから。
③将来は確実に「安全」な環境になると考えられるから。
④将来は学力に応じたきめの細かい教育が可能になるから。
⑤将来はネットやモニターが今以上に普及すると考えられるから。

- (13) 空欄部 **Q** に入る語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑬)
- ①学力 ②素養 ③分析 ④判断 ⑤知識

- (14) 二重傍線部F「親にとっては大きなショック」である理由としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号⑭)
- ①子どもが集団の中でうまく馴染んでいないと思うから。
②親の気を引くために子どもが嘘をついていると思うから。
③親を喜ばせようとする気持ちが子どもにないと分かるから。
④友達と遊ぶ自分の子どもを見ることができないと思うから。
⑤「良い子」の役目を子どもが理解できていないと分かるから。

〔15〕 波線部ア「不具合がある」の本文における意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔15〕)

- ① 礼節がない
- ② 欠陥がある
- ③ 罪悪感がある
- ④ 都合の悪さがある
- ⑤ 一貫性がない

〔16〕 空欄部 R に入る語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔16〕)

- ① 受け入れる
- ② 怖れる
- ③ 賞賛する
- ④ 否定する
- ⑤ 認める

〔17〕 傍線部 ii 「素直」の対義語としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号〔17〕)

- ① 豪快
- ② 頑固
- ③ 実直
- ④ 謙虚
- ⑤ 冷酷

〔18〕 本文に関する内容とは異なるものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。

(解答番号〔18〕)

- ① 漫画のように一部に大勢で制作できる作業を含む仕事もあるが、仕事の重要な部分は孤独な作業によって行われている。
- ② 今後は、ネットやモニタの導入によって常に登校と集団生活を必要とする従来型の学校のあり方は変化していく可能性がある。
- ③ 子どもは親を喜ばせるために、学校や友人関係について親の意向や願望にそった発言をしがちである。
- ④ 学校の集団生活は重要なことから、学校や勉強が必ずしも楽しいものではないことを大人は言葉で誤魔化してはいけない。
- ⑤ 教える側はあの手この手で子どもに楽しく勉強をさせようと懸命に努力している。

(二) 次の文章を読んで問(19)～(36)に答えよ。

A
源氏物語に出てくる人物はたいいていユウ美な名前を持っている。紫の上とか夕顔、花散里など。これは女につけられたものである。

男も、光源氏、薫中将、匂宮というように呼ばれている。

作者紫式部がつけたものもあり、後世の読者の命名によることもある。いずれも少女歌劇風にあまく、美しいのだが、当時、すなわち十世紀から十一世紀にかけての現実の世の中に、こういう呼び方が普通に行われていたのではない。むろん、物語の中でもこれらの呼び方はいわばあだ名のようなものであるが、それでも当時の実際のあだ名は、こんな星董派の詩のようなものではなかった。

世継ぎを生まぬ皇后には、その競争者が安堵と嘲りを込めて「素腹の后」(「石女の皇后」の意味)といいはやし、新参のお妃が興入って間なしに宮廷に火事があったところ、前からいた妃たちはさっそく彼女を火災の魔女であるかのように「火の宮」と名づけた。今に伝わる高貴の人々のあだ名は意地悪くソ野な趣さもある。平安時代の宮廷はあんがい野生のたくましさを持っていたようだ。

紫式部も「日本紀局」とつけられて閉口した。日本紀とは正式の日本歴史の書物で、宮廷ではれっきとした政治家や学者の教科書であり、男が勉強するものであったから、今でいうと「いばり屋」という意味で、むろん、同輩の女房のいやがらせである。源氏物語を読まれた一条天皇がたいそう感服なされて、「うむ、なかなか面白い、この作者は日本紀を読んでいる」と仰せられたので、同輩が嫉妬したのである。一条天皇とは彼女が仕えた女主人彰子中宮(皇后と同じ)の夫君である。

同じ一条天皇の皇后定子に仕えた清少納言は、宮廷の男の人にちやほやされて、「草の庵」と呼んであげようといわれた。漢詩の才を誉められたあげくのことだったので、人の好い彼女は喜んで枕草子に書き記しているけれども、いくら彼女が年増だったにしろ、女につけるには気の毒な名に思える。あるいは男たちの意地悪があったのかもしれない。そうであったにしても、芸のないあだ名である。

これに比べると、源氏物語の呼び名は大の男や常識の発達した大人には気恥しくて口にできない点はあるが、とにかく当時の文学的センスにかなうものであった。すなわち、その頃の和歌の言い廻し、言葉使いの呼吸を掴んでいるからである。

その上、源氏物語の読者はさしあたっては大の男やしっかりした常識を持つ大人ではなかったのですこしばかり気恥しい点があってもかまわなかった。直接の読者はまずただ一人の御方、彼女の主人 P である。この人は結婚生活に入ってまもない二十才まえのお姫様であった。

あまく美しい呼び名はいずれも作中人物の印象的な登場の仕方によっている。すなわち、それぞれ特色ある境遇や性格によって導き出された事件に由来するもので、作者が数多い登場人物を、中でも光源氏をめぐる女性を書き分けるためにいかに努力したかがわかる。

一例をあげると、夕顔という女は、場末の陋屋に故あって身を潜めていたのをたまたま乳母の病氣を見舞うことになった光源氏に見出される。夏のこと、乳母の邸の隣にあるその家には見知らぬつる草が青々とはいかかり、夕闇に白い花がほのかに浮き出ていた。豪勢な築山や泉水を配した光源氏の庭園にはついで見ぬものだから、彼は花の名も知らなかった。ところが、その賤が屋に住む女は

意外にも美しく可憐で、光源氏が今までにつきあった気位の高い貴婦人には見られぬ人なつこさがあり、庶民的な点で光源氏にとって目新しいこと、夕顔の花と同じであった。

あまりの身分違いに、光源氏は世間の非難を恐れながらも、しだいに恋の深みにはまりこんでいったが、わずか一月あまり、光源氏の気持が燃えさかるさなかに、ある夜隠れ家の密会でこの女は魔物に魅入られて絶命してしまう。まるで、夕暮の一時をひっそりと花開いて朝を待たずにしおれる夕顔のようにはかない女だった。光源氏があかぬ思いに彼女をしのぶときはいつも夕顔の花のイメージが浮かぶ。すると、読者もまた、宵闇に浮かぶ花のほの白さと彼女の顔が重なるように思う。

ここには省略するが、一人一人の女はみなこのような、いかにもその人らしい、舞台装置の中で登場する。それが、ことに源氏物語のはじめの方では、一卷一卷の内容をなしていた。紫の上・空蟬・末摘花・花散里・朧月夜などがそうであり、これらの名称は多くの場合同時に巻名でもあった。

しかし、作者もさるもの、それを使えばその人物についての一番大切なこと、その持ち味が分かるようなそれら美しい呼び名はむざむざ使わず、ぴりりと利く所にほんのときたまに用いた。美しい呼び名の現れるところは、物語の文章が高い張りをもって淀みなく流れるところであり、感情の極まるところである。すなわち、切望・悲タン・後カイ・追憶など、女の読者を誘いこまずにおかぬところ。そのとき物語の文章は多く七五のリズムを持ち、世に名高き歌や外国の詩をも行間に籠めて、いよいよ感動を強める仕組みになっていた。和歌のセンスをもつ呼び名はそこにぴったりあてはまった。だからこそ作中人物の美しい名前は読者の脳裏に深くきざみつけられて、作者のつけのこした人物にも命名してやったり、作者のつけたのとは違った名につけ変えてやったりしたのである。作者によって有明の君と呼ばれた貴婦人は後世の読者に朧月夜尚侍とつけられたし、手習の君は浮舟となった。夕顔の遺児玉鬘や光源氏の長男夕霧らほもっぱら読者の命名によるものである。

作者は多くの場合、おとなしく、当時の実社会の呼び方に従っていた。平安時代は実名を呼ぶのを不吉とし、不作法としたので、惟光とか良清というように呼び捨てにされてもかまわぬ家来すじの者を除いては官職で呼ぶのが普通であった。同じ官職の者がいて紛らわしいときは「源中将」「三位中将」などと区別する。年がたつと昇進するので、同一人物の呼び方が変わって、「源中納言」「藤中納言」になってゆく。また、「土御門殿」「三条殿」と住居の名で呼ぶこともある。女の場合は、誰の北の方、なにがしの姫君という。侍女だけは召名といって特別の呼び方があり、父兄や夫の官職で呼ばれた。他に同じ召名の者がいる場合は、姓をつけて区別すること、男と同じであった。「藤式部」「清少納言」といった調子である。お妃たちは出身の家柄によって女御・更衣などの身分の差があったが、それぞれ何人かいたから、彼女たちが住んでいる宮廷内の御殿の名で呼ばれた。弘徽殿女御・藤壺女御・麗景殿女御、桐壺更衣などである。弘徽殿と藤壺は天皇の居間、清涼殿にもっとも近く、そのため勢力のあるお妃が住むのがならわしであった。

はじめ藤式部と呼ばれた作者のちに紫式部といわれたのは、源氏物語を書いたために起こった特別の事例で、やはりこの物語の作中人物の命名の仕方に影響されているのであろう。

ところで、源氏物語は、これは何十年前に実際あった話なのだ、それを見聞きした生き残りの老女から聞いたことを書きつけるのだという体裁になっている。だから、物語の文章は作中の主人公た

ちに親しく仕えた女房の語り口をそのまま写したものになっている。その女房たちが主人に対して敬語を使うのは当然であるから、当今の小説の読者には奇異に思われるほど、源氏物語の文章は敬語にみちみちている。当時は身分関係がゲン重で、ことに源氏物語は敬語の秩序を整理し、洗練しようという意図もあったらしいから、作中人物の呼び方にもたとえ文学的に呼ぶにしても、上下関係についての意識は片ときも忘れ去られることはなかった。

源氏物語の文章の特色は、和歌漢詩のセンスにかなう美しく快いリズムを持つことと、的確な写実的描写をなしうることだといえよう。わたしたちが源氏物語の人物といえはさすがに思い浮かべる美しいなまえと、社会的地位による呼び方はともにこの物語の文章精神の産物だといえる。

(清水好子『源氏の女君』。なお、出題に際して本文を一部改めてある。)

注

* 1 星董派……与謝野鉄幹・晶子を中心として恋愛をうたった詩人の一派。

* 2 一条天皇……日本の第六十六代天皇。その後宮では『枕草子』『源氏物語』などの文学が開いた。(九八〇～一〇一一)

[19] 傍線部1「築山」の「築」と同じ読み方をする漢字を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[19])

- ①月夜 ②真竹 ③生傷 ④稲作 ⑤秩序

[20] 傍線部2「体裁」の「体」と同じ読み方を含むものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[20])

- ①体格 ②体験 ③体勢 ④風体 ⑤個体

[21]～[25] 傍線部a～eのカタカナで書かれた部分と同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

a ユウ美 (解答番号[21])

- ①ユウ然とした振る舞い。 ②株主ユウ待を得る。 ③ユウ便物を受けとる。
④ユウ敢な若者。 ⑤英ユウになろうとする。

b ソ野 (解答番号[22])

- ①ソ悪品を買わされる。 ②ソ母の墓参りをする。 ③必要なソ置をとる。
④ソ状が裁判所から届く。 ⑤ソ織の命令は絶対だ。

c 悲タン (解答番号[23])

- ①タン精込めて作る。 ②ことの発タンを語る。 ③タン鍊を積む。
④子どものタン生を祝う。 ⑤思わずタン息する。

d 後カイ (解答番号24)

- ① 地震で家が倒カイした。
- ② 子どもを誘カイする。
- ③ 雲カイが見えた。
- ④ カイ悟の念にとらわれる。
- ⑤ 視カイがひらける。

e ゲン重 (解答番号25)

- ① ゲン典を読み解く。
- ② ゲン号が変わった。
- ③ 彼はゲン格な人だ。
- ④ ゲン覚が見えた。
- ⑤ 下ゲンの月が浮かぶ。

[26] 傍線部 i 「閉口した」の本文中における意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ

選び、解答欄にマークせよ。(解答番号26)

- ① 驚いた
- ② 困った
- ③ 喜んだ
- ④ 悲しんだ
- ⑤ 不思議がった

[27] 傍線部 ii 「故あって」の本文中における意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ

選び、解答欄にマークせよ。(解答番号27)

- ① 葬式があって
- ② 実家があって
- ③ 事情があって
- ④ 友達がいて
- ⑤ 恋人がいて

[28] 傍線部 iii 「むぎむぎ」の本文中における意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ

選び、解答欄にマークせよ。(解答番号28)

- ① あっさりとは
- ② 残酷には
- ③ 大っぴらには
- ④ ひたぶるには
- ⑤ こっそりとは

[29] 二重傍線部 A 「源氏物語」について述べた文としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ

選び、解答欄にマークせよ。(解答番号29)

- ① 登場人物の命名はすべて作者の紫式部によってなされている。
- ② 一条天皇が愛読するなど男性の読者にも広く受け入れられた。
- ③ 皇子を生めない皇后に対して「素腹の后」と嘲る場面がある。
- ④ 有名な歌や漢詩を行間に籠め感動を高める方法を採用している。
- ⑤ 執筆された時代の数十年前に実際にあった話が語られている。

[30] 波線部 A 「星菫派の詩のようなもの」の説明として適切でないものを、次の①～⑤から一つ選び、

解答欄にマークせよ。(解答番号30)

- ① 風雅なもの
- ② 甘美なもの
- ③ 野性的なもの
- ④ 感傷的なもの
- ⑤ 文学的なもの

[31] 空欄部 P に入る人名としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[31])

- ①紫式部 ②彰子中宮 ③一条天皇 ④皇后定子 ⑤清少納言

[32] 波線部イ「夕顔という女」の説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[32])

- ①青々としたつる草のような、野性的で生命力豊かな女性だった。
②ほの白い花のような、上品な美しさと高い気位を併せ持つ女性だった。
③庶民的な花のような、陳腐で野卑な美しさを感じさせる女性だった。
④すぐおれる花のような、可憐ではかないところのある女性だった。
⑤宵闇に咲く花のような、不気味な雰囲気を持つ魔女的な女性だった。

[33] 波線部ウ「当時の実社会の呼び方」の説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[33])

- ①男性貴族は道長、惟光、良清などとお互いを呼び捨てで呼び合った。
②男性貴族は一度呼び名がつけられると、終生その名で呼ばれ続けた。
③侍女は自分が住んでいる住居の名前で呼ばれた。これを召名という。
④妃たちは桐壺更衣、弘徽殿女御など、宮廷内の殿舎の名で呼ばれた。
⑤紫式部は紫色が大好きだったため、紫式部と呼ばれるようになった。

[34] 波線部エ「それ」が指すものとしてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[34])

- ①特別な事例 ②命名の仕方 ③源氏物語
④実際あった話 ⑤当今の小説

[35] 二重傍線部B「源氏物語の文章は敬語にみちみちている」とあるが、それを説明した文として適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。(解答番号[35])

①主人公に仕えた侍女たちの語りを写し取ったという体裁を取っているから。
②平安時代においては現代よりも身分関係が確かなものとしてあったから。
③作者に敬語の秩序を整理し、さらに磨き上げようという意図があったから。
④作中人物たちの呼び方をロマンチックにしたいという思いがあったから。
⑤上下関係についての意識が常に作者の脳裏から離れることなくあったから。

〔36〕 本文の主旨としてもっとも適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄にマークせよ。

〔解答番号〔36〕〕

① 源氏物語の特色は文学的な美しいリズムと写実的な描写とが両立しており、それは登場人物の呼ばれ方によく表れている。

② 源氏物語が書かれた時代には人を少女歌劇風のあだ名で呼ぶのが普通で、清少納言にも「草の庵」というあだ名があった。

③ 源氏物語の作者である紫式部は、自作を読んだ一条天皇から「日本紀局」というあだ名をつけられて閉口した。

④ 源氏物語の登場人物はそれぞれの名前に由来した的確な舞台で登場し、巻の名前も常に登場人物の名前から付けられている。

⑤ 源氏物語の名づけは当時の文学的センスに基づいており、その描写のみによって広範な読者を獲得して今に至っている。